



教授

江幡 真史

えばた しんじ

理学療法学科

【専門領域】

経営史

(企業の生成・発展・衰退の過程に関する研究)

経営戦略

(目標設定とそれに向けた企業行動の研究)

企業統治

(経営者と利害関係者との間に発生する問題の研究)

研究・実務の業績

1. 【修士論文】 「20世紀後半における大手総合スーパーのチェーンストア経営の展開」
2018年3月
2. 【論文】 「日本の小売業経営史研究の1視座 - 多角化と企業発展に関する先行研究を基礎に」(単著) 2019年2月
3. 【論文】 「日本の小売業経営史研究の1視座(その2)-階層的統治に関する先行研究を基礎に」(単著) 2019年9月
4. 【論文】 「20世紀後半における米国シアーズ・ローバック社の多角化経営の展開」
(単著) 2020年2月

学生へのメッセージ

私は長年に亘りビジネスの最前線で活動し、そのうち20年間は複数の東証第一部に上場する会社の(代表)取締役として経営に携わって来ました。その経験に則って大切なことを2点お伝えします。

まず、「大学は、小中高大という学校制度のゴールではなく、生涯学習の始まりに位置する」ということです。私が曲りなりにも企業経営者としてその役割を全うできたのは、常に自己啓発に努めて、必要となる専門知識のレベルを向上させてきたからです。これに終わりはなく、今も修士学位を取得し、さらに博士学位を目指して研究を続けております。

つぎに、企業経営において心掛けたのは「売り手良し、買い手良し、世間良し」という近江商人の「三方良し」の教えです。これは、商売をする自分と相手だけが得をするのではなく、その取引を取り巻く社会全体にとっても良い結果となる状態を生むように努めることを意味します。

さて、本学がその育成を目指す「実務リーダー」像とは、この「三方良し」の精神をもって、所属する組織や関係する地域社会で、自身のもつ能力、資材、情報をフルに活用して社会の為に行動する人であると考えます。私が担当する授業では、自ら考え、これを自分の意見としてまとめること。そのうえで、ほかの学生の意見に耳を傾けながら、意見の違いに気づいて、さらに自身の考えを磨きなすこと。これらを通じて、生涯にわたって成長する人間力を身につけることを目指します。